

淑徳大学年報 基本方針

淑徳大学自己点検・評価委員会

2020年1月の大学自己点検・評価委員会によって、本学の自己点検・評価の指針が策定されました。この指針は淑徳大学の自己点検・評価を行うための基本的な考え方や標準的方法を示したものです。この指針に基づき、本学の自己点検・評価の仕組みは2020年度から大きく見直しが見なされています。

自己点検・評価の指針に基づいた自己点検・評価結果を集録したこの大学年報が、本学の内部質保証に資する取組みとなることを期待します。

— 基本方針 —

【趣 旨】

- 大学年報は、内部質保証に関する方針に基づき、恒常的に実施される自己点検・評価活動の一環（軸）である。
- 大学年報は、高等教育機関として教育研究活動等の不断の改善と向上のために組織的に行う自己点検・評価活動を取りまとめ、学内外に広く公表するためのものである。
- 大学年報は、教育研究活動等の取組みや改善活動を把握し、本学の内部質保証活動の証左とするため、下記の事項について集録を行う。
 - ①大学の基本方針（淑徳大学ヴィジョン、三つの方針、大学基準ごとの方針）
 - ②大学の自己点検・評価活動（自己点検・評価サイクル、外部評価、成果指標）
 - ③大学、学部・学科、研究科・専攻、各委員会、大学附置機関等の自己点検・評価報告書
 - ④内部質保証及び自己点検・評価活動の証左となるデータ
- 旧基本方針では、大学全体の教育研究の取組み・進捗状況の掲載を目的としたが、新基本方針では内部質保証活動の証左とするため、それらの実行状況を自己評価し、どのくらいの成果が得られたか等まで踏み込んで記載する。

【体 制】

- 年報の発行については自己点検・評価を主管とする「大学自己点検・評価委員会」が、大学組織・委員会、大学附置機関及び学部・研究科自己点検・評価委員会と連携し、取り組んでいく。
- 具体的な編纂実務については、大学自己点検・評価委員会が行う。

以 上

発刊にあたって

淑徳大学学長 山口 光治

2023（令和5）年度の淑徳大学年報が、皆様のご協力を得てこのほど発刊に至りました。執筆や編集、取りまとめにご尽力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

2023年度は本学にとって、学部移転や改組、全学共通基礎教育科目の新設等、7学部13学科2研究科を擁する「新生 淑徳大学」として新たな道を歩み始めた大きな変革の年でありました。策定されたタグライン「共に歩む これまでも これからも」には、「これまで」の歩みや建学の精神に立ち返り、本学の強みとは何かを問い直すことで、「これからも」教職員、学生が共に歩みを進めていくといった思いが込められています。

大学年報は、「淑徳大学 自己点検・評価の指針（以下「指針」）」に基づき、恒常的に実施される自己点検・評価の一環（軸）であります。それは、高等教育機関として教育研究活動等の不断の改善と向上のために、組織的に行う自己点検・評価活動を取りまとめ、学内外に広く公表するためのものです。

この度、大学年報制作の見直しを二点行いました。第一に、「自己点検・評価の学内浸透を踏まえた評価サイクルの見直し」です。2004年度より始まった本学の年報発刊もこの度20冊目となり、構成員に自己点検・評価に取り組む規範が日常的なこととして浸透しつつあります。そのうえで、第4クール成果指標1年目の2023年度は、自己点検・評価体制そのものの適切性の点検時期と捉え、評価活動のスパン（周期）や検証結果の有効性を検討し、また現場の負担を軽減すべく、自己点検・評価サイクルを見直しました。

第二に、「大学年報制作業務の見直し」です。2023年度の大きな変革を契機とした継続的な見直しの第一段階として、担当者への現状確認で抽出された課題に対し実務の効率化を図りました。具体的には、大学年報編集実務委員会を実態に合わせて解体し、Microsoft Teamsの導入により実務担当者間の連携を強化しました。本学は2025年度に第4期認証評価受審を控えており、恒常的かつ実質的な質保証の仕組みの構築に向けて、今後も内部質保証体制の見直しを継続していきます。

第二段階として、解体された大学年報編集実務委員会の後継組織の検討をすすめ、4キャンパスの連携を強化し、共に「新生 淑徳大学」として歩んでいけるような組織体制の見直しを予定しています。2023年度はそのスタートになる1年となりました。

淑徳大学は、時代の要請と社会の変化に対応すべく、組織を改編しつつ、常に学修者本位の教育とその質向上、そして、淑徳ならではの教育のさらなる実現に向けて、教職員の皆様とともに取り組んでいきます。その足跡を本年報にしっかりと刻んでまいりたいと思います。

2024（令和6）年9月